



19佐土第 3号

平成19年5月9日

国土交通省道路局長

宮田年耕様

長野県佐久市長 三浦大助



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

日頃から佐久市政に対し、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記についての意見を別添のとおり提出します。

## 中期的な計画の作成にあたっての意見

長野県 佐久市

### ☆ 今後の道路政策や道路の整備・管理について

#### 1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

(1) 高規格幹線自動車道14,000kmを早期整備し、高速交通ネットワークを構築する。

○ 中部横断自動車道全線の早期整備

(2) 地域高規格道路を早期整備し、地域の交流と連携を図る。

○ 松本佐久地域高規格道路の早期整備

地方では、現在医師不足の状況が続いている。特に産科医、小児科医の不足は深刻であり、子どもを産み育てることは非常に厳しい環境となっている。

また、病院においても医療がますます高度細分化され、一つの病院で全科をそろえることが不可能となっている。これからは、病院間で機能分担を図ることが必要であり、高規格道路を病院の廊下にし、高速交通ネットワークを軸とした救急医療ネットワークの構築が必要不可欠である。

また、高規格道路は地方において實際上生活道路となり、救急患者の搬送の他、通院、通勤、通学、さらには災害時等における緊急避難路、支援物資輸送路として果たす役割が極めて大きいものである。

高規格道路の整備は、安全で安心して生活する上で重要な社会資本の構築であり、更に、福祉の充実を図ることができる。

### (3) 住民に密着した道路整備

少子高齢化社会の中で、モータリゼーションはマンカーから公共交通が見直され、重視されて来ている現在、自動車主体から、歩行者・自転車等の利用しやすい、また利用したくなる、人・環境にやさしい道路整備の推進を図る。

## 2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

### (1) 事業必要性の評価見直しを図り、路線別、区間別に徹底する。

- 事業効果（費用対効果）の算定方法を見直しする。利用度重視の算定に地域性及び生活性を加味した算定に改め、路線毎、区間毎に算定する。
- それぞれの道路の目的や性格などに沿って、整備した道路が効率的に機能するように、沿道の土地利用の促進を計る地区や抑制する地区の区別をはっきりさせるなど、各種の方策を併せて検討する。

### (2) 道路をより有効利用する方法の実施

- 利用者により使い勝手の良い道路の整備  
事業効果をより発揮するため、高規格道路についてスマートICや地域活性化ICの設置増や、高速料金の引き下げなど利用者により使い勝手の良い道路とする。
- 地域住民への道路等の必要性の情報公開と住民の意識向上を図ること。地域住民の積極的な道路政策（清掃ボランティア、道路マップの作成、花いっぱい運動、除雪活動等）への参加をしてもらい、生活に密着した道路への理解を深め、情報機関で取り上げてもらう必要があると思われる。

## 3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

- 道路利用者等のボランティアによる道路清掃、フラワーロード、除草、除雪等への積極的参加により、道路に対する意識改革を図っていくことが必要と考える。

また、道路事業整備にあたり、日常生活に一番直結し、家庭生活を支えている立場の女性の皆さん方や各世代の意見も聴きながら、各層の意見が反映されるような道路整備を図って行く取り組みが必要である。

道路整備の事業効果（費用対効果）は利用度のみで計るものでは

なく、地域性、生活性を加味して算定すべきである。

- 既設道路の改築等は、現在進められている工事看板において、より文字を大きく示し、いつ、どうして、どのような工事を進めているか広く地域住民に理解してもらうことが必要と思われる。
- 一定水準に達した道路整備は、維持管理を図ることにより、社会基盤が保たれていくものであり、既存の道路の安全性や、環境を一定水準に保っていくための、行政による計画的・効率的執行、住民との協働、国の補助など財源の確保が必要。